



# ウェアラブル端末の発展から見る 台湾市場の商機(上)

ウェアラブル端末市場はここ数年急速に発展しており、台湾市場においても2014年から健康管理を主な目的としたリストバンドやスマートウォッチ等の販売が始まっている。ASUS、Acer、HTC、鴻海等の台湾企業から医療機関に至るまで、数多くの事業者が当分野の研究開発に注力しており、ウェアラブル端末の更なる多様化が期待されている。本稿では、台湾におけるウェアラブル端末の発展状況について紹介する。

## 台湾におけるウェアラブル端末市場

ウェアラブル端末は、主にリストバンドタイプ(Activity Trackers)、腕時計タイプ(Smart Watch)、メガネタイプ(Smart Glass)及びその他アクセサリタイプの4種類に分類できる。リサーチ会社のABI Research及びInternational Data Corporation (IDC)によると、こうしたウェアラブル端末の世界販売台数は2018年には5,000万~1億台以上の規模になると予測されている。

欧米諸国や日本では既に2011年より様々なウェアラブル端末の販売が始まっていたが、台湾では2014年からSONY SMART WATCH、Samsung Gear等、主にスマートフォンメーカーから関連商品の販売が始まった。

台湾市場において特に注目されているウェアラブル端末は、フィットネストラッカーである。台湾では、近年ランニングブームの機運が徐々に高まっており、2013年に台湾にて開催されたランニングイベントは500回近くに上った。これに伴い、フィットネストラッカーの需要が拡大しているが、現在市場に出回っている端末は価格が高く設定されている。こうした状況の中、賽博国際集團傘下の博研公司(CyberBrain)は中国のメーカー Codoon が手掛ける手ごろな価格の健康管理用リストバンドを販売している。ランニング距離、カロリー消費量、睡眠の状況などを記録できるだけでなく、アプリケーションやSNSと連動し友人と共に運動や競争が出来る機能を搭載している。また、蓄積された運動量の記録を仮想通貨に変え、オンラインショッピングで商品に交換するなど多様なサービスが提供されており、消費者の購入意欲を高め且つ長期的に利用を促す工夫が施されている。

## 台湾企業による研究開発の状況

海外製品の他にも、台湾のローカル事業者もウェアラブル端末の潜在市場を見越して続々と製品開発を進めている。

ノートPC大手のASUS、Acerやスマートフォン大手のHTC等は、スマートフォン及びタブレット端末からシフトする形で積極的に投資している。Acerは2014年7月に健康管理機能を備えたスマートウォッチ「Acer Liquid Leap」を発表する予定であり、HTCも2014年のクリスマスシーズンまでにファッション性と機能性(長時間のバッテリーに強み)を両立したスマートウォッチを発表する方針である。その他、OEM大手の鴻海集団は、2013年末に38億元を投じBOT方式で台北資訊園區(サイエンスパーク)の開発を行うと同時に、ウェアラブル端末関連分野に2億元の投資を行う方針を示している。また、医療機関との連携により、心拍数や呼吸数等の健康情報を測定・管理できるリストバンドタイプの端末の販売を行うと発表している。

ウェアラブル端末は、医療産業関連の先端技術と非常に密接な関係がある。一例として、有力な医療グループの一つである長庚醫院・長庚大学では、2013年に紡織産業総合研究所と共同で開発した介護・健康用品を発表した。主な製品は、見守り機能を備えた衣服、人体姿勢を感知するベスト、運動量を計測するベルトであり、患者が身に付けている紡織品から発汗或いは体温等の状況を把握・管理することが可能である。また、台湾の不織布メーカーである康那香もIC設計の華星科技等と連携してスマートおむつの開発に取り組んでおり、おむつ内の湿度を感知する技術によって、排泄等の状況をスマートフォンを介してユーザに提供する等、遠距離介護の一助となることを目指している。

次号では、ウェアラブル端末産業における台湾企業の技術課題と日台連携の可能性について紹介する。

(林宜蓁 : y2-lin@nri.co.jp)